岡本太郎とTAROMAN：爆発する生命の哲学

現代の閉塞感を打ち破る「毒」と「でたらめ」の芸術

本資料はインタラクティブな動画リンクを含みます。各スライドの赤いボタン（▶）をクリックして、映像とともにお楽しみください。

NotebookLM

TAROMAN(タローマン)特撮映像を見る

16:9

現代に蘇る「でたらめ」の衝撃：TAROMAN現象

予測不能の特撮活劇

岡本太郎の作品と言葉をモチーフにしたNHK特撮番組。

熱狂的ブーム

映像作家・藤井亮の狂気的な1970年代風映像美と、サカナクション・山口一郎の語りがSNSで爆発的拡散。

でたらめの力

予定調和の現代エンタメに対する、強烈なアンチテーゼ。

NotebookLM

常識を破壊する「毒」の哲学

優等生化を拒絶せよ：
波風を立てない無難な生き方は、
精神の死を意味する。

自分の中に毒を持て：
他人の評価に媚びず、あえて危険で孤立する道を選び、
自らの個性と信念（＝毒）を
むき出しにしろ。

▶［岡本太郎の哲学：
「毒」と「孤独」について学ぶ］

安全な道（社会の常識）

危険な道（自分の中の毒）

NotebookLM

「芸術は爆発だ」の真意

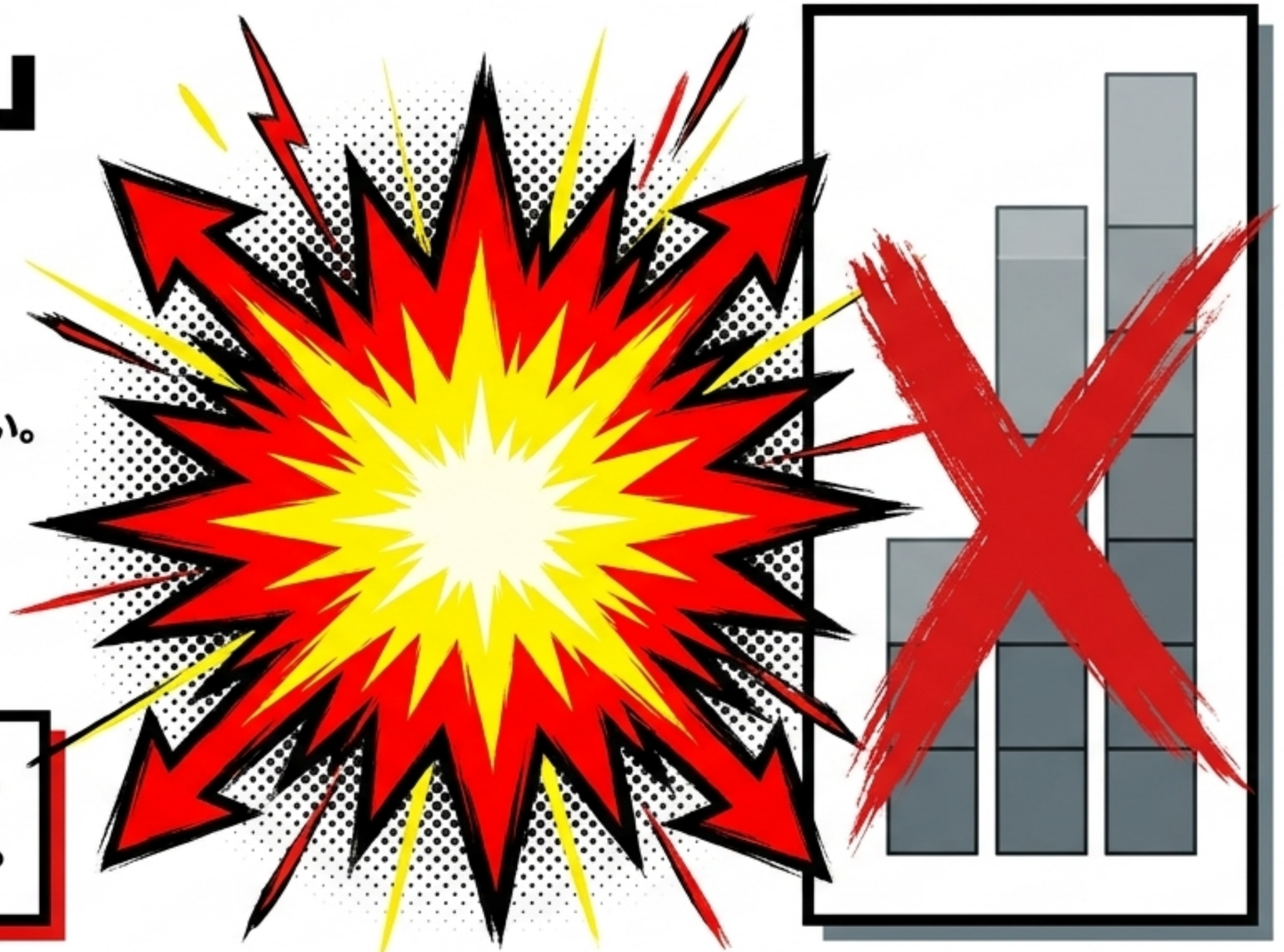
✕ 蓄積と打算

損得勘定や予定調和、将来のための計算ではない。

○ 瞬間の完全燃焼

「いつか」という未来に逃げず、今この瞬間に
無目的・無条件で全エネルギーを放出し、
命を燃やし尽くすこと。

芸術家とは、現代のシャーマンとして、人々の
根本的感動と生命力を呼び覚ます存在である。



▶ 「芸術は爆発だ」伝説のマクセルTVCMを見る

NotebookLM

TAROMAN奇獣録：芸術作品はいかにして特撮怪獣となったか

原作（Art）	奇獣（Kaiju）	太郎のメッセージ（Message）
《森の掟》（1950）		「でたらめをやってごらん」 （流行に左右されない赤の強烈な使用） 第1話を視聴
《歓喜》（1965）		「自分の歌を歌えばいいんだよ」 （猛烈な素人としての造形的な冒険） 第2話を視聴
《駄々っ子》（1951）		「同じことをくりかえすくらいなら、死んでしまえ」 （対極主義：相反する要素の猛烈な不協和音） 第4話を視聴

NotebookLM

作品に込められた「対極主義」と「不協和音」

権力のの虚構性

恐ろしい赤い獣の背中には「ファスナー」。開ければ中身は暴露され、権力はバカバカしいものに変わる。

不協和音の中の調和

専門の鋳物師に「音が出るか自信がない」と言わしめた無数の角。結果、音が反響し合い見事な音色を生んだ。

▶ 梵鐘《歓喜》(久国寺)の実際の音色を聴く

NotebookLM

究極の生命力：《太陽の塔》と《明日の神話》

究極の生命力：

「進歩と調和」の対極。
過去・現在・未来を貫き、
底辺から突き上げる原始的なエネルギー。

▶ 太陽の塔：内部空間《生命の樹》公開映像を見る

惨劇を乗り越える誇り：

原爆の悲劇すらも乗り越え、
その先に新たな神話を生み出す人間の力強さ。

NotebookLM

現代社会の「解毒剤」

現代のバイブルとしての岡本太郎

書評動画：『自分の中に孤独を抱け』（アバタロー氏解説）をフル視聴する

若者やビジネスパーソンの間で『自分の中に毒を持て』が再評価。他人の目を気にするSNS社会において、「代用品の人生を捨て、生身の自分に賭けろ」「未熟さこそが可能性だ」という言葉が、強烈な救済となっている。

NotebookLM

爆発空間へようこそ：岡本太郎を体験する

川崎市岡本太郎美術館

川崎市岡本太郎美術館（神奈川）

《森の掟》《駄々っ子》など、圧倒的なスケールの作品群を体感する巨大空間。

川崎市岡本太郎美術館 PR動画を見る

岡本太郎記念館（東京・南青山）

実際に太郎が暮らし、作品を生み出したアトリエ空間。《午後の日》など、息づかいがそのまま残る。

▶ 岡本太郎記念館 バーチャルツアーを体験する

NotebookLM

「真剣に、命がけで遊べ」

岡本太郎という存在そのものが、挑発的な「動く芸術作品」だった。
社会の「正解」という枠組みを破壊し、今この瞬間を猛烈に生き抜け。
あなたの命を、爆発させろ。

フィナーレ：岡本太郎 肉声名言集・アーカイブ映像を見る

NotebookLM